

小野谷機工の新商品

balancer用 リフト「L-1000C」 changer用 リフト「PL-80SL」

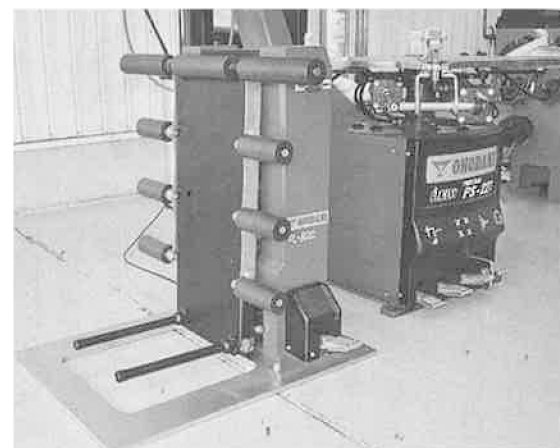
小野谷機工はこのほど、重くてつらいタイヤホイールの持ち上げを軽労化するタイヤリフト2種を新発売した。ホイールbalancer用「L-1000C」とchanger用「PL-80SL」がその商品。一体どんな商品なのか。前回に引き続き、福井県越前市の同社でお話を聞いた。(木本)

作業者にとって少しでも安全で楽な作業を提供する…。軽労化に向けた小野谷機工の挑戦は、終わることが無い。同社では全国のサービスマンたちが日々、お客様との意見交換の中で市場の声を受け止め、機材の使い勝手について、改善のヒントはないか、常に探求を怠らない。

同社宇田専務は、『我々の商品開発には三村社長の教えが生きています。プリチストンでは社員に求める姿勢として有名な「熟慮

断行」という言葉がありますが、三村社長の教えは「断行」です。思い悩むよりもまずやってみることが大切だということです。それで失敗してもとがめられることはない。また別な角度から試してみる。これが開発部隊の高いモチベーションにつながっていると感じます」と話す。

今回上市した2つの商品も、こうした旺盛なチャレンジ精神から



PL-80SL

生み出されたものだ。早速、実演を見せていただいた。ホイールbalancer用タイヤリフト「L-1000C」は、前モデルの「L-

1000」を操作した後、スイッチを操作してタイヤを上昇させた際、タイヤと操作スイッチが離れてしまうという欠点があった。

などの取り付けミスに留意しながら作業しなければならぬ。ミスを防止するためには下側からホイールをのぞき込んで作業するが、これも面倒な動きである。それを改善したのが「L-1000C」。balancerと合わせた高さまで台を上昇させた後は、スライド機構になっている台を横に滑らせるだけ。スイッチが手元にある安心感も大きいし、これまで見にくかったディスク裏側も容易に見ることができるようになった。

一体化したスイッチのバーには、クッション材が取り付けられ、ホイールの傷つき防止にも配慮している。リフトを下降しナットを取り付けbalancer測定した後は、リフトを再び上昇させて台をスライドさせてタイヤを乗せ、逆の手順で下降と実にわかりやすい。

続いて、乗用車チェンジャー用タイヤリフト「PL-80SL」の見学に移る。写真を見ればわかるように、タイヤリフトとしては「一風変わった形である。実演して見せてもらったが、ペダル操作すると、タイヤが垂直に上昇するのでなく、振り子式に横向きに上がっていく。実に斬新な設計だ。リフトを上昇させた後は、チェンジャーのテーブル側にリフトをスライドさせ、テーブルにタイヤをセットするだけ。確かにこれは作業しやすい。垂直式では、タイヤをテーブルに倒しこむ際、ホイールが傷つかないよう支える必要があり、テーブルとの距離も離れている。しかし「PL-80SL」では移動距離も短くなっており、明らかな軽労化につながっているとさえ言う。

目からウロコの新機能 持ち上げ軽労化に貢献

「1000」から大きく改善したが、操作スイッチを本体と一体化した構造にしたことだ。

そのため、作業者はディスク面側からだけしかホイールをのぞくことができず、ホイールが滑ってしまったり、タイヤが転倒する

り、軸とセンターが合わせやすくなった。実感として格段に取り付けやすくなっているのがわかる。また、細かい点だが

この間、作業者は全く力を使うことがない。形を変えることで作業者の軽労化とともに、視認性の良さにもこだわった、そんなタイヤリフトだと言え

「L-1000C」と「PL-80SL」。軽労化にこだわるショッブ、整備工場、販売会社営業所にとっては注目の新商品といえそう。価格は「L-1000C」が19万円、「PL-80SL」が31万5千円。納期は約3週間。商品問い合わせは同社本社0778-22124または営業所まで。

L-1000C



「L-1000」では本体の横にボールが立っており、そこにスイッチが操作する形となっているが、リフト



左右両側から視認しやすい

滑らすように移動できる

タイヤが横に持ち上がる